

大川小で新任校長研修

宮城県あす 学校防災遺族が講師

宮城県は4日、東日本大震災の津波で児童74人と教職員10人が犠牲となった同県石巻市立大川小学校で、新任校長を対象に防災研修会を開く。防災意識の向上が狙いで、同県が大川小を教職員研修で活用するのは初めて。児童を亡くした父親2人が講師になり、学校防災の重要性を訴える。

大川小は、震災の津波で最大の犠牲者が出た学校と

して知られる。防災の研修などで学校関係者らが全国から訪れているが、同県教育委員会による研修は一切行われてこなかった。

しかし、同小の遺族らが石巻市と県を相手取った損害賠償請求訴訟について、最高裁は昨年秋に市と県の上告を棄却し、学校側の責任を認める判決が確定。県教委は「学校防災への意識を高めたい」として今年度、

同小での研修を取り入れた。

対象となるのは県内の小中高などで今春、校長となった96人。校舎を視察し、

児童らの当時の状況などについて遺族から説明を受ける。講師の一人は、元教員で6年生だった次女みずほさんを亡くした佐藤敏郎さん(57)。定期的に語り部の活動を行う佐藤さんは「大川小での研修は早く実現し



大川小の校舎を前に当時の様子などを説明する佐藤さん(右)(7月、宮城県石巻市で)

てほしかった。児童があの日どう行動したかなど学校現場での防災の大切さを伝

えたい」と話している。

大川小は児童数の減少などで2018年に閉校。石巻市は震災遺構として校舎の保存を決めた。来春の公開を目指し、校舎周辺に芝生を敷く「追悼の広場」や管理棟の整備を進めている。